

## はばたくなら⑦

つながりの第一歩  
～オンライン交流から再び交流へ～

## 取組について

■本園では幼児一人一人の育ちや興味・関心に寄り添いながら、その発達に必要な経験を入園から卒園するまでを見通し、計画的に保育することを大切にしている。指導計画は毎年各学年で見直しながら作成し全職員で共通認識をしている。幼稚園の遊びや生活に関しては小学校や家庭、地域にも発信していくことを大切にしなければいけないと感じている中で、『3校に分かれて就学する』という園の実態から学校とのつながりが深まらないということが課題であった。

■安心して学校に行けるようにと、3つの小学校の様子を撮影してもらい、就学時健康診断前に動画視聴することを続けてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響で小学校とつながりをもつことがより難しくなった。

コロナ禍で過ごした年長児の様子をみていると、人との関わりの制限が多く経験の少ないままでの就学となり、小学校先生を楽しみにしている反面、不安に思う幼児もいるのが現状であった。安心して学校生活を楽しみ、新しい環境の中で自らの力を発揮できるように何かできることはないのか、本園ができる学校とのつながり方を再度考えることにした。

## この取組を通して…

○制限されることも多かったコロナ禍であったが、小学校の先生と話し合い、オンラインでの交流を実施することができた。今年度、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、もう一歩進んで直接つながることができるのでは…と考えていたが、幼稚園が考えていたよりも前に進むことができなかった。今回の取組から幼稚園、小学校の職員同士がつながるということが大事だと感じた。

○子どもたちが安心して就学できることを第一に考え、支援を要する幼児については療育機関と連携を取り、思いを一緒にして保護者と就学について話をしながら幼稚園なりに「幼小連携」を考えてきた。

○これからは、小学校と幼稚園、保育園・所がつながることを課題とし、今までの交流も大切にしながら、小学校と幼稚園の職員同士が意見を交換できる場や本園の子どもたちが小学校の生活を体験することで、少しでも不安を取り除けるように、具体的に案を立て根気よく働きかけることで「接続」への糸口を見つけていきたい。

○また、6つの園・所から就学することの課題を改めて小学校から聞くことができ、保育園・所と幼稚園の横の交流の機会をもてるようにすることが必要であると感じた。

○幼小が接続していくには相互の教育内容を理解し合うこと、どんな風に育てていきたいのか共通理解をすることが重要であるということをも改めて認識することができた。

## 実践事例① これまでの小学校との連携

コロナ禍前の幼稚園と小学校とのつながりは、就学時健康診断で小学校へ初めて行く機会があったり、半日体験入学で小学生との触れ合いを楽しんだりして、年長の2学期中頃から子どもたちは少しずつ就学への期待を膨らませていた。

コロナ禍になって

就学時健康診断→保健施設 半日体験入学→中止

そんな中でも、小学校の先生が就学前の子どもを見にきてくださり、幼小連絡会も行われた。

子どもたちに少しでも  
小学校のことを知らせたい…



小学校の先生に上牧幼稚園のネット環境を見てもらいGoogle meetでオンライン交流をする

みんなで考えた  
質問に答えて  
もらったよ



ジャンボ  
じゃんけん  
をしたよ

(成果)

これまでは、小学校の先生と連絡会でしか話をする機会がなかったが、オンライン交流をきっかけに1年生の先生と顔見知りになり話をする機会も増えた。20分ほどの交流だったが、子どもたちは小学校の教室の雰囲気や授業の様子を見ることができて、とても喜んでいて、2年に渡ってのオンライン交流で町内3つの小学校と交流ができ、とてもよかった。



(課題・願い)

来年度はオンライン交流から直接交流をしていきたい！という思いを、小学校の先生に伝える。

## 実践事例② R5年度就学時健康診断～

子どもの姿

気付いたこと

10月17日に自作の「しょうがっこうってどんなところ？」の動画を年長児みんなで視聴した。同じ小学校に行く友達同士が近くに座って視聴した。小学校の校舎や運動場、体育館、教室など様々な場所が映るたびに口々につぶやき、とても嬉しそうだった。



幼稚園より  
ひろ～い

就学時健康診断に行く前に視聴したことで、小学校を身近に感じ、楽しみにしたり目的をもったりする姿につながった。

## 半日体験入学（11月30日・12月1日）に参加

子どもたちの表情は、いつもより緊張しているようで保護者と別々の活動になると、少し不安そうにしている子もいた。担任を見つけると嬉しそうに手を振り、ほっとした表情になった。優しく話しかけてくれたり、手をつないだりしてくれる小学生の優しさに触れ、緊張していた子どもたちの表情も笑顔でいっぱいになっていた。



学校探検



おもちゃランド



ゲーム遊び・ダンス



小学生からもらったアサガオの種。  
校長先生からはメッセージもいただく。

(子どもたちの感想)

- ・楽しかった。
- ・アサガオの種もらっよ!
- ・校長先生に「メッセージありがとう」って言ってきたよ。

半日体験入学を経験し、学校の先生や小学校のお兄さん、お姉さんと関わることができ、子どもたちは小学校が少し身近に感じられるようになったのではないかと感じた。また、担任が半日体験入学に参加させてもらったことで、翌日、子どもたちの話す内容もよく理解でき、楽しかった活動など子どもと一緒に振り返り、共感することができた。

2月下旬、園バスに乗って「小学校めぐり」を予定している。

### 実践事例③ 就学に向けて療育機関とのつながり (11月頃)

クラスの中には、療育に通っている園児もいる。保護者に了解をいただいて直接療育機関と連絡を取り、お互いに見学し合う機会をもった。

- ・療育機関の先生方と直接顔を合わせて話をするので、子どもの姿や互いに行っている支援の違いについて伝え合うことができた。
- ・これからの支援計画や就学についても相談することができた。
- ・同じ方向性で保護者にアプローチをすることができ心強く感じた。
- ・幼稚園と療育機関が連携していくことは子どもの成長につながり、同じ方向性をもって取り組んでいくことにはとても大事な意味があると感じた。

### 実践事例④ 職員研修で (幼小連携について)

本園では年に数回、講師の先生を招いて園内研修を行っている。今年度は6月に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」について、夏休みには「保幼小連携・接続」についての研修を行った。その際、小学校、教育委員会にも声をかけ、一緒に参加してもらった。

(小学校の先生が思うこと)

- ・私立も含めて6つの幼稚園、保育園・所から入学してくるので子どもの姿が様々で幼稚園からの続きでスタートすることは難しい。
- ・幼稚園では先生に話をよく聞いてもらっていたのか「私の話を聞いて」と来る子が多く、対応に困る時がある。

・小学校の先生に、入学した子どもたちがどのように学校生活に慣れていくのか、就学して困っていることは何かなど聞くことができ、改めて小学校生活のことを知る機会となった。

・幼児教育の積み重ねが生かされていないという現状を知り、ショックを覚える。同時に保育園・所との横のつながりがなかったことを改めて認識する。

これからの課題

・まずは、保育園・所と幼稚園の交流、先生や子どもが顔を合わせる機会や場をもてるようにしていくことや、幼小接続の研修に保育所の先生たちにも参加してもらうことから始めようと思った。